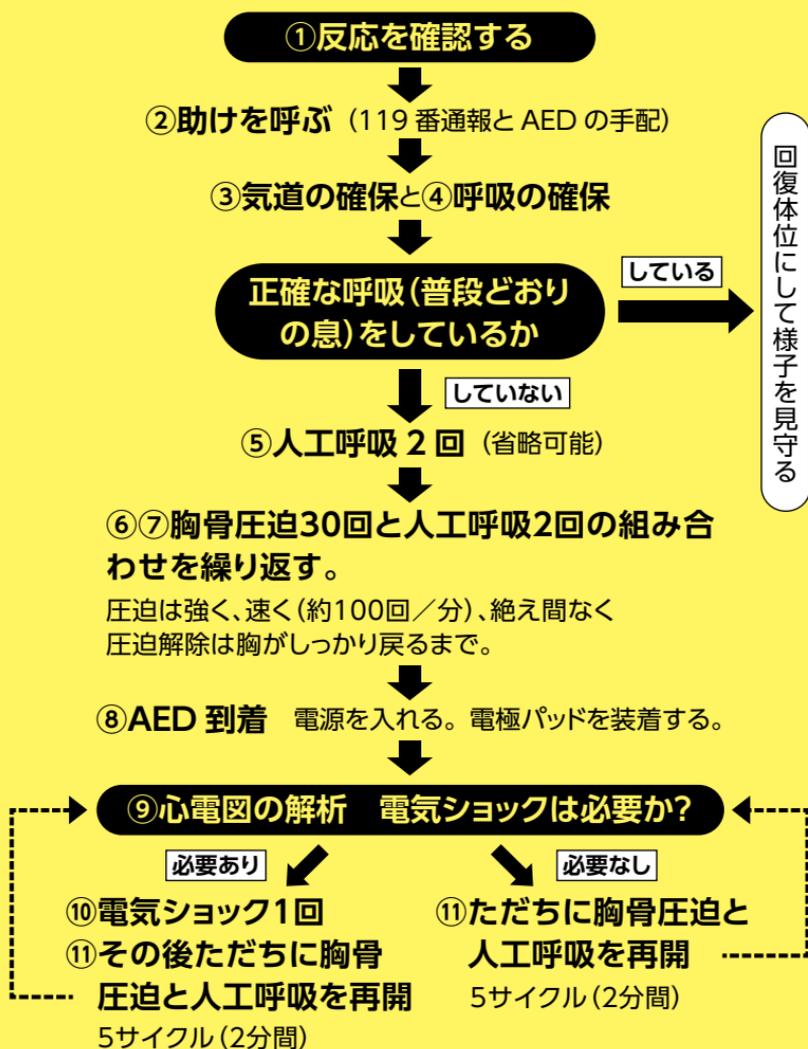


# 救命処置

## 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用)



## 1 心肺蘇生法の手順

### ●倒れている人がいるとき

耳元で「大丈夫ですか。」または「もしもし。」と呼びかけながら、肩をたたき反応があるかないかを見る。



- 
- ①傷病者に近づくときは、まず周囲の安全確認をする。
  - ②何らかの応答や目的のある仕草がなければ「反応なし」と判断します。
  - ③意識があれば傷病者の訴えを聞き、必要な応急手当を行います。
-

## ●助けを呼ぶ

何も反応がなければ大きな声で「誰か来て!人が倒れています。」と助けを求める。



## ☆誰もいない場合

- ①もし誰もいなければ、119番通報をまず行います。
- ②すぐ近くにAEDがあり、誰もいなければ取りに行ってください。
- ③119番通報すると、消防職員が手順を指導してくれます。



## ●協力者が来たら



「あなたは119番通報してください。」「あなたはAEDを持ってきてください。」と具体的に要請します。

処置ができるようにします。「仰向けにする、安全な場所へ移動する等。」



## ●呼吸の確認

**「見て」「聞いて」  
「感じて」確認する!**



- ① 10秒以内で胸や腹部の上がり下がりを見て、正常な呼吸をしているかどうか確認します。
- ② 呼吸がない場合や正常な呼吸をしていない場合、心停止とみなし心肺蘇生法を開始します。

## ●胸骨圧迫(心臓マッサージ)の実施

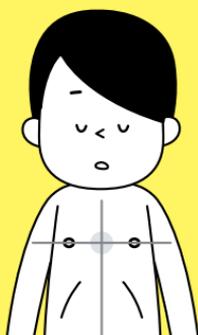
呼吸がない場合はただちに胸骨圧迫(心臓マッサージ)を実施し、全身に血液を送ります。



胸骨圧迫(心臓マッサージ)



胸骨圧迫の姿勢



胸骨圧迫部位



両手の置き方



両手の組み方と  
力を加える部位



- 
- ①胸の真ん中を、腕を伸ばし重ねた両手で「強く、速く、絶え間なく」圧迫します。
  - ②「強く」約5センチメートル、小児は胸の厚さの約3分の1が沈むほど強く圧迫します。
  - ③1分間に100回の速いテンポで30回連続して絶え間なく圧迫します。
  - ④圧迫と圧迫の間（圧迫を緩めるとき）は、胸がしっかり戻るまで十分に力を抜きます。
- 

## ●人工呼吸

### (1)気道の確保

- ①傷病者の喉の奥を広げて空気を肺に通しやすくします。
- ②片手を額に当て、もう一方の手の人差し指と中指の2本をあご先（骨のある固い部分）に当てて、頭の後ろにのけぞらせ、あご先を上げます。



---

指で下あごの柔らかい部分を強く  
圧迫しないようにします。

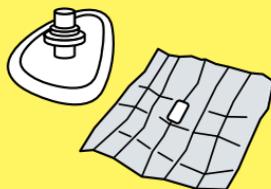
---

## (2)人工呼吸(口対口人工呼吸)

- ①気道を確保したまま、額に当てた手の親指と人差し指で傷病者の鼻をつまみます。
- ②口を大きくあけて傷病者の口を覆い、空気が漏れないようにして、息を約1秒かけて吹き込みます。傷病者の胸が持ち上がるのを確認します。
- ③いったん口を離し、同じ姿勢でもう1回吹き込みます。
- ④胸が上がらない場合でも、吹き込みは2回までとし、すぐに胸骨圧迫に進みます。



- 
- ①簡易型の感染防護具(一方向弁付シート、人口呼吸マスク)を持っていると役に立ちます。
  - ②顔や口から出血している場合や、人工呼吸を行うのをためられる場合は、胸骨圧迫のみを続けます。
- 

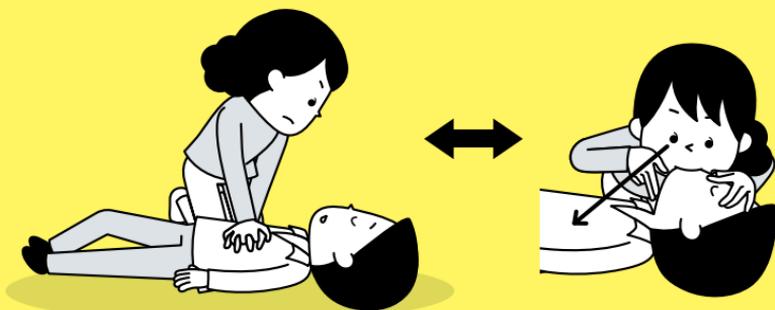


簡易型の  
感染防護具

### ●心肺蘇生法の実施

#### (胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせを継続)

- 胸骨圧迫を30回連続して行った後に、人工呼吸を2回行います。
- この胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ(30:2のサイクル)をうめき声や、正常な呼吸をするか、救急隊または医師に引き継ぐまで絶え間なく続けます。



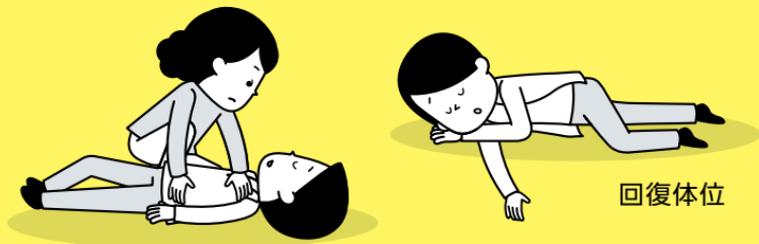
30回:2回



疲れるので、もし、救助者が二人以上いる場合は、2分間(5サイクル)程度を目安に交代して、絶え間なく続けることが大切です。

## ●回復体位

反応はないが、正常な呼吸をしている場合は…

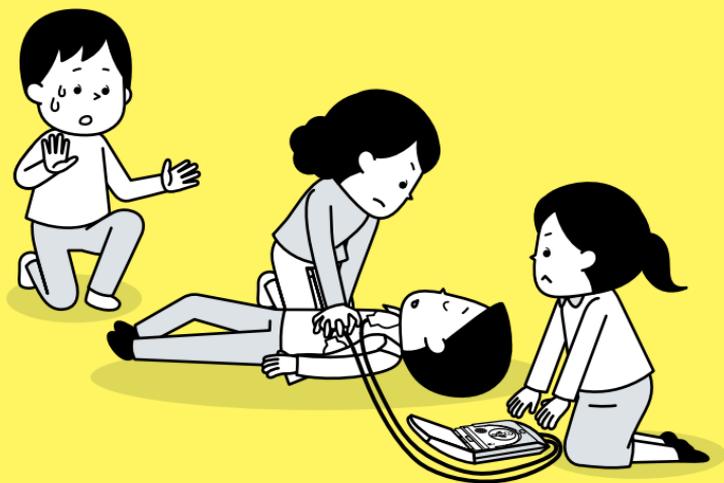


- ①反応はないが十分な呼吸をしている場合には、吐物等による窒息を防ぐため、傷病者を回復体位にします。
- ②傷病者の下になる腕を前に伸ばし、上になる腕を曲げ、その手の甲に傷病者の顔を乗せるようにします。さらに、上側の膝を約90度曲げて、傷病者が後ろに倒れないようにします。

## 2 AEDの使用手順

### ●AED到着

- 傷病者の近くにAEDを置き、ケースやふたを開けて電源ボタンを押します。
- AEDのふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。
- あとは音声メッセージと、点滅するランプに従い操作します。



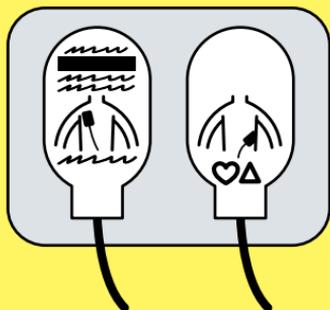
- 心肺蘇生法を行っている途中で、AEDが届いたらすぐにAEDを使う準備を始めます。
- AEDにはいくつかの種類がありますが、どの種類も同じ手順で使えるように設計されています。AEDは電源が入ると音声メッセージとランプで、あなたが実施すべきことを指示してくれますので、落ち着いてそれに従ってください。



AEDの電源を入れる

## ●電極パッドの装着

- 貼り付ける位置は電極パッドに  
絵で表示されているので、それ  
に従ってください。



電極パッド



電極パッドを貼り付ける位置



- 
- ①電極パッドは、肌との間にすき間を作らないよう、しっかりと貼り付けます。  
アクセサリなどの上から貼らないように注意します。
  - ②成人用と小児用の2種類の電極パッドがはいつている場合がありますが、小児の傷病者に成人用の電極パッドを使用してはいけません。
  - ③胸が濡れている場合はふき取る。
  - ④胸に貼り薬があり邪魔になる場合は、はがしてふき取る。
  - ⑤ペースメーカー等がある場合は、そこを避けて貼る。
-

## ●心電図の解析



- パッドを貼ると自動解析が始まります。
- 解析中は傷病者から離れます。
- 解析ボタンのある機種もあります。

## ●AEDの指示があれば除細動(電気ショック)

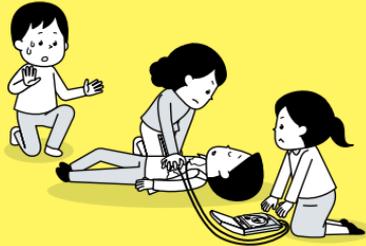
- 「ショックします。みんな離れて!!」と注意を促し、周囲の安全を確認し、点滅しているボタンを押します。



- ①ショックボタンを押す際は、必ず自分が傷病者から離れ、さらに誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- ②電気ショックが加わると、傷病者の腕や全身の筋肉が一瞬けいれんしたようにビクッと動きます。

## ●心肺蘇生法を再開

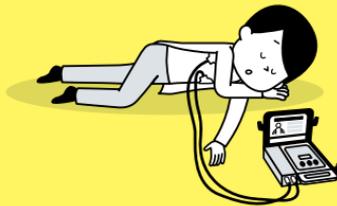
- 電気ショック後またはショック不要の指示後はすぐに胸骨圧迫から開始します。
- 約2分後AEDが自動解析します。
- 心肺蘇生法は、うめき声や正常な呼吸をするか、救急隊に引き継ぐまで続けてください。



- 
- AEDを使用する場合でも、AEDによる心電図の解析や電気ショックなど、やむを得ない場合を除いて、胸骨圧迫と人工呼吸をできるだけ絶え間なく続けることが大切です。
- 

## ●回復体位 (AED)

- 電極パッドは貼り付けたままにしておきます。



## ●AEDの手順と心肺蘇生法の繰り返し

- 心肺蘇生法を再開して2分(胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせを5サイクルほど)経ったら、AEDは自動的に心電図の解析を再び行います。  
音声メッセージに従って傷病者から手を離し、周りの人も傷病者から離れます。
- 以後は、〈心電図の解析→電気ショック→心肺蘇生法の再開〉の手順を、約2分間おきに繰り返します。

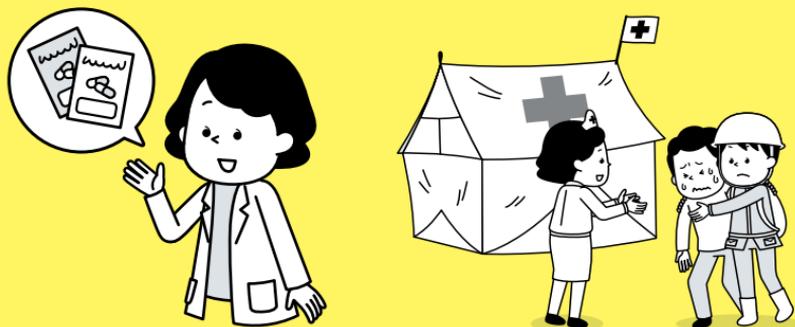
## お薬手帳を持っていますか？

手帳があれば避難所でも安心して医療を受けられます。

災害時に避難所などで医療支援を行う医師や薬剤師は、あなたがどんな持病を持っているのか、普段どんな薬を飲んでいるのか一切わからない状態で診療や投薬を行わざるを得ません。

災害時の避難生活のとき、普段飲んでいる薬がなくなっても、お薬手帳を持っていれば、あなたが飲んでいる薬がわかり災害前と同じ治療が受けられます。

災害時には、「お薬手帳」を必ず持ち出すようにしましょう。



# ふくおか医療情報ネット

休日や夜間の急な病気のと看、診察可能な病院を  
24時間体制で紹介しています。

病気やけがなどにより、病院の受診を希望される方もしくは、急な病気やけがで救急車を呼んだ方がよいか?今すぐ病院で診察を受けるべきか?など迷っている方に、24時間年中無休で、オペレーターが診察が可能な医療機関を紹介したり、看護師が緊急度の判定を行います。

また、消防機関などへ必要な情報の提供を行い、円滑な連携体制のもとに、救急患者の医療を確保しています。



## 電話による案内及び相談

専用電話 #7119 または 092-471-0099

## インターネットを利用した医療機関の検索

●「ふくおか医療情報ネット」

<http://www.fmc.fukuoka.med.or.jp>